

防火實習





艦艇勤務が基本である海上自衛官は、油火災を想定した消火要領の体得が必須となっています。まずは、ノズル及びホースの操法演練を体に覚えさせます。



防火訓練は一つ間違えば負傷者が発生する危険な訓練です。

教官たちも学生が理解するまで繰り返し指導していきます。



訓練も中期になると、実際に使用する装備を着用し、本番さながらの訓練を実施します。



※空いたスペース
を活用し技能向上
を目指します。

※教官たちも学生の技
能取得・向上のため熱
心に指導します。



訓練ではできても実際に火を見た瞬
間に怯む学生もいます。

しかし、火を前に怯むと逆に負傷し
ます。とにかく反復練習あるのみです。



いよいよ防火訓練当日です。
教官の手により火がつけられますが、反復練習の成果でしょうか、落ち着いた表情に見えます。



教官の指示により消火訓練が開始されました。



火災の恐いところは火の成長スピードです。



消火を開始する頃には、すでに学生の身長以上に燃え上がっています。



教官が横から学生のサポートします。



学生以外は消火ホースを持っていません。
火勢や熱波に自ら立ち向かいます。



火勢が下火
となってしま
した。



そして、つ
いに火が見え
なくなりました。
た。



放水を止め、
自らの目で消
火成功の最終
確認をします。

それでは、どんどんいきます。







防火訓練は無事に終了しました。
本訓練を通じて「大きな困難も仲間となら解決できる」といった事を肌で体感できたのではないのでしょうか。